

令和2年度
九州地方環境パートナーシップオフィス
運営業務実施報告書
(令和2年4月～令和3年3月)

一般社団法人 九州環境地域づくり

もくじ

1. 業務の概要	3
2. 業務の実施状況.....	3
(1) 運営委員会と連携した業務の推進	3
(2) 基本業務	7
(3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務	21
(4) 地域循環共生圏推進に向けたセミナー・ワークショップ等の開催	42
(5) 外部連携事業（外部資金を活用した取組）	48
(6) EPO 九州の維持管理	52

本報告書は、令和2年4月～令和3年3月（4月1日から3月31日）の九州地方環境パートナーシップオフィスの運営業務内容について報告するものである。

1. 業務の概要

年間計画に基づき、下記業務を行った。

- (1) 運営委員会と連携した業務の推進
- (2) 基本業務
- (3) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務
- (4) 地域循環共生圏推進に向けたセミナー・ワークショップ等の開催
- (5) 九州地方 ESD 活動支援センターの運営
- (6) 外部連携事業（外部資金を活用した取組）
- (7) EPO 九州の維持管理

2. 業務の実施状況

(1) 運営委員会と連携した業務の推進

EPO 九州の活動について、環境パートナーシップに関与する NPO、企業、行政、メディア、有識者等を運営委員として選定し、助言ならびに取組に応じた協力・連携を得て、円滑かつ効果的な運営に取組んだ。

①運営委員会・企画運営委員会の開催

運営委員会は、EPO 九州の事業方針、事業計画について協議を行うとともに、九州・沖縄地域内の環境パートナーシップに係る情報交換や実態の把握とそれらをとおした課題の洗い出しを行い、EPO 九州の運営や事業実施についての助言を行う。本年度は2回開催した。また、九州地方 ESD 活動支援センターの運営にあたり、企画運営委員会を併設し、委員会について同時開催した。

【令和2年度 運営委員】

	分野	県	氏名	所属
1	学識経験者	熊本県	篠原 亮太	熊本県立大学 名誉教授 熊本県環境センター 館長
2	学識経験者	福岡県	石丸 哲史	福岡教育大学社会科教育講座 教授 ※企画運営委員兼任
3	学識経験者	長崎県	山口 純哉	長崎大学経済学部 准教授
4	金融・ファンド	-	小野 峰宏	日本政策金融公庫 農林水産事業本部 九州地区統轄
5	企業・環境ビジネス	福岡県	田村 忠広	一般社団法人九州経済連合会 産業振興部長
6	地方公共団体	福岡県	中川 正則	北九州市環境局 総務政策部長
7	ソーシャルビジネス	福岡県	濱砂 清	(一社) SINKa/社会起業家支援ネットワーク九州・アジア代表理事
8	メディア	宮崎県	杉尾 守	宮崎日日新聞社 経営企画室長
9	NPO・中間支援	佐賀県	橋本 辰夫	NPO 法人温暖化防止ネット
10	自然共生・啓発	鹿児島県	浜本 奈鼓	NPO 法人くすの木自然館 代表理事 ※企画運営委員兼任
11	NPO・中間支援	沖縄県	岸信 朋	合同会社 MIRAIMI.Lab 代表

委員会の開催状況

行事名	令和2年度第1回 EPO 九州運営委員会
開催日等	日 時：令和2年8月13日 会 場：熊本城ホール 会議室 出席者：24名（オンライン含む） ※ESD センター企画運営委員会と一体開催。
目 的	令和元年度の運営状況の報告、令和2年度運営計画の協議・助言、および個別事業に対する連携内容を検討する。
概 要	＜次第＞ 1.開会 2.出席者紹介 3.委員長選任 4.EPO九州・九州ESDセンターについて 5.令和2年度EPO九州運営計画について 6.令和2年度九州ESDセンター運営計画について 7.その他

成 果	<p>EPO 九州の第5期運営の開始年度に伴い、EPO 九州がローカル SDGs 推進に向けてどのように活動を行うかの中期活動方針を各委員に示し、他分野、多方面からの示唆・助言を得た。</p> <p>特に新型コロナウイルス感染拡大に合わせた社会構造の変化に対応し、環境パートナーシップの促進を進めていく手法について、委員から具体的な提案が行われた。</p>
検討 指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・示された中期目標を確実に実践することが重要。 ・新型コロナウイルス感染拡大に加え、九州各地域で発災する自然災害への対応が必要である。気候変動の状況と併せた啓発活動が必要。 ・各委員からの地域の情報共有が一層有効になる。 ・離島の持つ有限性が顕在化しており、島しょ地域へのフォローが求められる。 ・EPO 九州の活動ビジョンの具体化、明確が必要である。 ・活動ターゲットについて、世代やセクターまで突き詰めた議論。 ・EPO の役割をシンプルに示すようなツールが必要。 ・コロナ禍で何ができるかという視点でデジタル化を進める。 ・金融機関との連携をどのように進めるか。 ・環境や地域性、く足について情報発信をすることが EPO の活動に繋がる。 ・企業が更に積極的に SDGs と関わるかを思索し、情報提供とマッチングのプロセス作りが求められる。 ・中堅企業が SDGs にコミットする一方、小規模経営が事業との関連付けに難航している状況をどう EPO の活動に位置づけるか。 ・地域の状況を探るため、積極的なネットワーク展開が必要。
写 真	

行事名	令和2年度第2回 EPO 九州運営委員会
開催日等	<p>日 時：令和3年2月16日</p> <p>会 場：熊本城ホール 会議室（オンライン開催）</p> <p>出席者：22名（事務局含む）</p> <p>※ESD センター企画運営委員会と一体開催。</p>
目 的	令和2年度の運営状況の報告、令和3年度運営計画の協議・助言、および個別事業に対する連携内容を検討する。
概 要	<p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 出席者紹介 3. 委員会設置要綱等の整理について 4. 令和2年度EPO九州運営報告について 5. その他

<p>成 果</p>	<p>出席委員に対して、令和2年度の EPO 業務活動状況を報告し、次年度活動に関する助言をいただいた。</p> <p>新型コロナウイルスに対応した活動内容に評価をいただいた一方、次年度及び中期活動方針においては、EPO の活動の核を明確化し、その内容を幅広く対象へ周知しつつ目標達成に取り組む指針が示された。</p>
<p>指摘 検討事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ローカル SDGs の推進に当たりプロデューサーの発掘が急務。 ・業務について抽象的な説明と捉えた部分もあり、具体的な行動が想起できる説明が欲しい。 ・メディア掲載は継続的に取り上げてもらえるような仕掛けを作り、掘り下げた発信が必要となる。 ・資料の Web 掲出など、オンラインの良さを活用して欲しい。 ・EPO 業務で環境、経済の両面で活動することは苦心もあるが、早期にモデル作成することをもうく表に活動していただきたい。 ・金融機関が環境問題について理解が不足している状況もある。 ・コロナ禍の中で多岐にわたる事業を行っている点を評価する。 ・情報発信においては、オンラインに情報が溢れる中、差別化を行い、埋もれないような工夫が必要である。 ・対面でしかできなかったことを、オンラインでどのように実現するか検討。 ・EPO 九州の活動の核が見えづらい印象があった。今後明確化してほしい。 ・事業の評価指標、目標設定、達成状況を明示する必要がある。

(2) 基本業務

地域循環共生圏構築に向けたネットワーク拡張

・地域循環共生圏・SDGs推進に向けた情報ハブとしてのEPO九州

令和2年度の成果目標

- ・地域循環共生圏の理解促進（メルマガ24本、ウェブ・SNS記事50本）
- ・地域循環共生圏推進に向けた協働促進（相談対応 5件）

①EPO九州からの独自情報の発信

ア、ウェブサイトの運営

EPO九州ホームページ内に地域循環共生圏ポータルメニューを設定し、PF活動団体の情報をはじめ関係施策、支援情報を随時掲載・更新した。

イ、プッシュチャンネルとしてのメルマガの発行（月2回、年間24回）

メルマガに地域循環共生圏の取組を重点的に紹介し発信支援する。

また次の活動記事・情報を掲載する。

- ・九州地方環境事務所からの情報
- ・地域循環共生圏推進に関する施策情報
- ・九州管内のビジターセンター、地域ESD拠点から情報

ウ、EPO九州・九州地方センターリーフレットの改訂

EPO九州を紹介するリーフレットについて、地域循環共生圏の取組みを掲載し改訂・発行した。

発行概要：A4版横観音折



エ、ニュースレターの発行

域循環共生圏特集ページを組み、PF 活動団体の活動紹介紙面を充実させた。

発行概要：A4版16ページ、多色刷り

①強みを活かした情報発信

情報発信の強化を図ることを目的に、事業やプロジェクトに関わる「人」にフォーカスしたインタビューを行い、独自コンテンツを創出する。また、インタビュー結果をウェブサイトやニュースレター等に掲載し、EPO九州のネットワークを活用して発信する。

具体的には、協働取組やESD推進に取組む関係者へのインタビューを行い、事業やプロジェクトの特長を活かしたコンテンツを創出する。

インタビューによる コンテンツ創出	インタビュー等実施状況					
	有識者（巻頭言）	法政大学准教授 川久保氏 ローカルSDGs推進についての寄稿				
	地域循環共生圏推進	小国町 係長 森氏 小国町の地域循環共生圏の取組についてインタビュー				
	ESD推進主体関係者	NPO 法人福岡NGOネットワーク 事務局長 原田氏				
	ESD推進主体関係者	田舎の体験交流施設 さんがうら 施設長 小川氏				
ホームページ・ SNS等の活用 ※その他 instagramを利用	四半期単位	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	年間
	HP 投稿数	211	201	158	130	700
	EPO九州 九州ESDセンター	25	24	17	23	89
	Facebook 投稿数	167	204	169	170	710
	メルマガ発行数	5	7	7	7	26
メルマガ登録者数	660名（令和2年3月31日）					
ニュースレター の発送	795件 ※主な送付先：九州・沖縄管内の自治体（SDGs未来都市等） NPO・企業等団体、環境学習拠点、教育委員会等、 NPOセンター、ビジターセンター等、EPO事業関係団体等					
成果、特記事項	活動状況をまとめたニュースレターを九州・沖縄地域の行政組織や、地域循環共生圏に関連する団体へ送付を行い、EPO九州の周知を行った。送付にあたっては地域循環共生圏に関する資料を同封、ローカルSDGsの関心を喚起した。					

②相談対応を活かした対話の場づくり

EPO 九州への相談内容等に応じて、対話の場づくりに努める。また、相談内容に応じて、EPO 九州・九州 ESD センターでの対応を検討し、提案等を行う。

■相談・対話の場対応1

相談者	熊本日日新聞社（熊本県熊本市）
相談内容	熊本日日新聞による個別配布ペーパー「すばいす」（7月3日発行号）でのSDGs 特集へのアドバイスおよび取材依頼。 ※熊本市を中心に30万3,000部戸別配布。 ※サイト上でも同様の情報公開中。 https://spice.kumanichi.com/life/life-feature/91886/
相談日	令和2年5月7日（木）

■相談・対話の場対応2

相談者	徳之島町役場企画課（鹿児島県）
相談内容	地域循環共生圏事業に関して、EPO 編集 SDGs リーフレット送付。 徳之島地区自然保護協議会の場において資料として6月19日使用とのこと。
相談日	令和2年6月9日（火）電話相談。

■相談・対話の場対応3

相談者	活動団体（鹿児島県南さつま市）
相談内容	NPO 法人より、SDGs 研修企画相談。
相談日	令和2年6月12日（金）

■相談・対話の場対応4

相談者	企業担当者（鹿児島県阿久根市）
相談内容	エネルギー関連企業より、福岡県八女地域でのバイオマス活用について情報照会。 現地 NPO 法人等の情報提供を行う。
相談日	令和2年6月19日（金）

■相談・対話の場対応5

相談者	熊本市 緑の基本計画改訂委員会（熊本市環境局環境推進部）
相談内容	Web 出席への出席依頼。
対話の場	令和2年6月22日（月）、8月27日（木）開催。 ※オンライン参加

■相談・対話の場対応6

相談者	宮崎日日新聞社（宮崎県宮崎市）
相談内容	宮崎県内のSDGs推進に向けたプラットフォーム形成を検討している。 →EPOの取組情報を提供。また、運営委員として連携し、活動支援する。

■相談・対話の場対応7

相談者	JICAデスク熊本（熊本県熊本市）
相談内容	関西からの修学旅行生を対象としたSDGsワークショップについて相談。

■相談・対話の場対応8

相談者	熊本市国際交流会館（熊本県熊本市）
相談内容	熊本市国際交流会館 国際ボランティアワークキャンプ実行委員の研修企画として、SDGsをテーマとしたワークショップ対応の相談。
対話の場	令和2年8月23日（日）に実施。ユースワークショップとして講師対応。

■相談・対話の場対応9

相談者	大分県地球温暖化防止活動推進センター（大分県大分市）
相談内容	温暖化防止活動推進員研修会 講演依頼 環境基本計画に基づく研修企画として連携
対話の場	令和2年9月25日（金）講師対応（大分県大分市）

■相談・対話の場対応10

相談者	福岡市役所環境局環境政策課（福岡県福岡市）
相談内容	自治体SDGs先進事例についての紹介依頼。 EPOの業務内容を共有し、ニーズ等今後も情報交換を行う。
対話の場	令和2年10月20日（火）電話相談。 12月3日（木）九州地方環境事務所同行にて福岡市役所訪問を実施。

■相談・対話の場対応11

相談者	熊本県弁護士会（熊本県熊本市）
相談内容	弁護士を対象にSDGsについての講演依頼相談。 弁護士会環境委員会による勉強会開催。法務とSDGsの視点から話題提供。
対話の場	令和2年10月27日（火）講師対応。（熊本県弁護士会館）

■相談・対話の場対応12

相談者	エネルギー関連企業（大分県）
相談内容	大分県等にて木質バイオマス発電等に取り組む企業の担当者来所。 環境配慮電力の売電、林業振興等の領域で活動。 SDGs、地域循環共生圏について解説し企業登録なども提案
相談日	令和2年9月1日（火）電話相談。 令和2年9月8日（火）来所相談。

■相談・対話の場対応13

相談者	熊本市国際交流会館（熊本県熊本市）
相談内容	施設へのインターンを対象にSDGsに関する講師依頼。
対話の場	令和2年9月2日（水）講師対応。

■相談・対話の場対応14

相談者	一般社団法人環不知火プランニング（熊本県熊本市）
相談内容	水俣市内の女性を主な対象としたSDGsワークショップ実施に関する相談。 地域ESD拠点登録団体の環不知火プランニングと連携して実施。
対話の場	令和2年9月11日（水）ワークショップを開催。（水俣市）

■相談・対話の場対応15

相談者	小売業者（福岡県）
相談内容	スーパーマーケット店内の使用済みトレイの回収に関し、回収に伴う返金の寄付先について相談。九州地域の活動団体を紹介した。
相談日	令和2年9月30日（水）来所相談。

■相談・対話の場対応16

相談者	リコージャパン株式会社（福岡県福岡市）
相談内容	EPO九州訪問の上、佐賀市との協定を始めとした企業としての地方創生活動について情報交換。EPO九州からビジターセンター展示についての事業等をヒアリングを実施した。また、地域循環共生圏企業登録などの提案を行った。
相談日	令和2年10月2日（金）来所相談。

■相談・対話の場対応17

相談者	ランドアース（熊本県球磨郡）
相談内容	球磨村水害復興意見交換
対話の場	令和2年11月4日（水）

■相談・対話の場対応18

相談者	リコージャパン株式会社（福岡県福岡市）
相談内容	自治体ビジネス本部、事業開発本部担当者と、SDGs 推進状況、地域循環共生圏への取組状況の共有の他、九州、沖縄地域での活動についての情報交換を実施。今後も地域の情報等について共有を行う方針を共有した。 ※地域循環共生圏構想推進室からも同席。
対話の場	令和2年11月26日（木）来所相談。

■相談・対話の場対応19

相談者	e-さがしコラボ事務局（特定非営利活動法人温暖化防止ネット：佐賀県佐賀市）
相談内容	今年度 Web 開催となった「2020WEB さが環境フェスティバル」の名義後援について相談。
対応	令和2年12月1日（火）から25日（金）の開催に関し名義後援対応。

■相談・対話の場対応20

相談者	長崎市環境部環境政策課（長崎県長崎市）
相談内容	地域の団体、企業が参加する「ながさきエコライフフェスタ」の実施にあたり EPO 九州への名義後援について相談。
対応	令和2年12月5日（土）、6日（日）開催に関し名義後援対応。

■相談・対話の場対応21

相談者	びぶれすイノベーションスタジオ（熊本県熊本市）
相談内容	地元企業、個人事業主を対象としたコラボレーション企画「Bスタジオ企業研究ラボ」における第一回交流会にて、SDGs をテーマとした講演について依頼。
対話の場	令和3年1月3日（日）講師対応。

■相談・対話の場対応22

相談者	NPO 法人 SDGs Spiral（福岡県北九州市）
相談内容	北九州市の魚町商店街振興を目的としたイベント「魚町銀天街 SDGs Cafe Online」への出演、講師依頼。
対話の場	2月5日（金） オンライン対応。

■相談・対話の場対応23

相談者	北九州市立大学 教授 牛房 義明氏（福岡県北九州市）
相談内容	北九州市のエネルギー政策や、水素技術活用と住民参画を目指したクリーンエネルギープロシューマーモデルの開発について情報交換。EPO 事業との連携、関係者の紹介等について相談。
対話の場	令和3年2月5日（金） 来所相談。

■相談・対話の場対応24

相談者	熊本市国際交流会館（熊本県熊本市）
相談内容	施設へのインターンを対象にSDGsに関する講師依頼。
対話の場	令和3年3月2日（火）講師対応。

■相談・対話の場対応25

相談者	NPO 法人（沖縄県）
相談内容	助成金制度利用時の第三者評価について相談
対話の場	令和3年3月5日（金）電話相談。

③地域循環共生圏推進に向けたユース意見交換会（相談対応強化・対話の場づくり）
 ユース世代の活動取組をネットワークする場として、関係団体と連携し意見交換会を開催した。

催事名	熊本県立菊池農業高等学校 SDGs ワークショップ
開催日時等	日 時：令和 2 年 9 月 18 日（金） ①農業科 1 年生対象 11:15-12:35 ②農業クラブ・生徒会対象 16:00-17:30 会 場：熊本県立菊池農業高等学校 農場センター会議室 対 象：農業科 1 年生及び生徒有志 合計 33 名
概要	<p>EPO九州が企画に協力した、地域ローカルメディア「すばいす」のSDGs特集記事をきっかけに、熊本県立菊池農業高等学校教員から相談を受け、SDGsを初めて学習する1年生向けと、すでに関心の高い生徒向けの2つのSDGsワークショップを実施した。</p> <p>開催当日は、菊池市役所、ESDを実践する菊池市立菊池南中学校、JA菊池といった、地元機関からの視察や取材を受け、メディア掲載、学校間の交流、地域全体としてのSDGs取り組みの検討等、多方面の動きにつながった。</p> <p>【プログラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. EPO九州からのSDGsについての解説 2. カードゲームを使ったワークショップ実践 3. SDGsアクションプラン作成 4. 質疑応答等
目標	<p>専門科目での学びにおいて地域社会や産業界と協働し、地域課題解決等のための実践力を生徒が身に付ける。</p> <p>持続可能な開発目標について学び、目標の達成に向けて菊池農業高校全体として、また、個々の生徒のできる取り組みについて考える機会を提供する。</p>
アンケート回答より	<ul style="list-style-type: none"> ・身近すぎて気付かなかったことがたくさんあった。自分達の身近な物事から、協力していきたい。 ・SDGsはいろいろなところに関わっているんだなと改めて思った。 ・とても分かりやすく、楽しみながらSDGsについて学ぶことができた。 ・今までSDGsに近いようで遠い存在かなと思っていたが、今日のお話や体験ゲームをして、身近な存在に感じた。 ・農業の目標・目的が分かり、SDGsについての知識がとても深まった。 ・カードゲームで他の班の発表を聞いて「こんな考え方もあうあるんだな」と思い、楽しく勉強になった。 ・1人で取り組むのではなく、周りと一緒に協力することが大切だとわかった。 ・「12. つくる責任、つかう責任」というのは、農業を勉強している身の私には、とても心に残った。 ・進学先の研究に取り入れれたり、地元の地域農業でSDGsを意識していきたい。
写真等	

催事名	くまもと慶誠高等学校 SDGs ワークショップ
開催日時等	日 時：令和2年10月28日（水）13:50-15:40 会 場：くまもと慶誠高等学校 視聴覚室 対 象：普通科グローバルコース2年生 35名
概要	<p>菊池農業高等学校 SDGs ワークショップでの手法を活かし、グループワークを通してSDGsの考え方を理解し、カードゲームによって社会課題解決のアイデア出しを体験する場となった。</p> <p>【プログラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SDGs についての解説プレゼンテーション 2. カードゲームを使ったワークショップ実践 3. グローバル交流に向けたアイデアワークショップ 4. 質疑応答等
目的	グローバルコースの生徒がSDGsについての理解を深める機会を創出し、SDGsの考え方をふまえ、熊本から発信する力を獲得する。
アンケート回答より	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動として話し合い、SDGsのことをたくさん知れて良かった。 ・初めてSDGsの事を具体的に知りクラスの人達と話し合いができて良かった。 ・グループで問題について考え、みんなで協力して想像力を高め、解決できた。 ・初めて聞く言葉も沢山あり難しかったが、17のゴールすべてにしっかりとした意味があることに驚いた ・自分は12番の「つくる責、つかう責任」を考え、取り組みたい。 ・熊本の良さをいろいろな人に広めていきたい。
写真等	

催事名	長崎県立大村城南高等学校 SDGs 全校研修
開催日時等	日 時：令和2年12月24日（金）9:55-10:45 会 場：※オンライン対応 対 象：全校生徒446名 教職員40名 合計486名
概要	<p>長崎県立大村城南高等学校教員より、学内のSDGs教育の推進に向けて先進事例の情報提供依頼を受け、同校に農業分野があることから、今年度ワークショップ事例を基に研修を提案し、全校生徒と教職員向けの校内SDGs研修として講師対応を行った。</p> <p>また新型コロナウイルス感染拡大の状況から、オンラインにて開催となり、運営や内容に関する定期的な打合せ等を行い、EPO九州から関連するノウハウを教育現場に提供した。</p>

	<p>【解説プログラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SDGs についての説明 2. 持続可能な社会の担い手について 3. 今、そしてこれからの社会像 4. SDGs 時代に求められる人材とは
<p>目的</p>	<p>農業と福祉の学びをベースに持続可能な開発目標について理解を深める。 また、生徒が持続可能な社会の担い手へ成長する契機づくりとする。</p>
<p>アンケート 回答より</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に 8 番の“働きがいも経済成長も”が知りたい。 ・17 の目標をより具体的にした「169 のターゲット」が気になったので、調べてみたい。 ・楽しく協働できる大人になりたい。 ・今回、初めて SDGs についての詳しい説明を聞き、当たり前なのが全くできていないなと思った。今までそんなことを意識して生活したことがなかった。今回のことで自分にもできそうなことを見つけれられたと思うので、これから看護師を目指すうえで少しずつ意識していこうと思った。 ・この講話を聞いて印象に残った言葉は「まざりあって超えてゆけ」と「誰も置きざりにしない」。貧困や差別など関係なく誰であろうと未来と一緒に行く、多様な分野の仲間たちと力を合わせて、突破していけるというのが今必要なのだと考えることができた。 ・リモートで講話を聴いたのは初めてでとても新鮮。SDGs については授業などで学んだことがあったけど、新しく学ぶこともあり勉強になった。 ・SDGs は自分だけで何とかするものではなく、様々な人達と助け合いながら環境を守っていくことも大切なことだということがわかった。 ・発展途上国の乳児死亡率が高いと聞いた。青年海外協力隊になって、援助に関わりたい。小さなことから、まずは SDGs のことを理解することから始めたい。 ・私たちが出来ることは、自分達の身の周りに沢山ある。それが小さいことだったとしても、いずれは広がると思うので、自分がやれることについて取り組んでいきたい。 ・たくさんの人達と SDGs について話し、他の人達の意見も聞いてみたい。 ・まずは、SDGs のことを忘れず、内容を理解して、SDGs のことを知らない人に広げていき、この取り組みに関わる人が増えるようにしていきたい。 ・コロナウイルスの影響で直接講義できない中、リモートでスライドを使って丁寧に説明され、わかりやすかった。
<p>写真等</p>	

催事名	熊本市国際交流会館 グローバルワークショップ SDGs 講師対応
開催日時等	日 時：令和2年12月19日（土）14:00-16:00 会 場：熊本市国際交流会館 2階ラウンジ 対 象：4名 ※連続講座受講生 主 催：一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
概要	熊本市国際交流振興事業団主催の、大学生、専門学校生を対象とした連続講座（全6回）の第2回の講師をEPO九州から担当した。 参加者の興味関心に対応し、SDGsについて理解を深め、グローバル人材として社会課題を解決するアイデアを、協働し考えるワークショップを実施した。 【プログラム】 1. SDGs についての解説 2. 持続可能な社会の担い手像 3. 意見交換とディスカッション 4. 今、そしてこれからの社会像
アンケート回答より	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs についてより詳しく学ぶことができたとともに、自分以外の意見や考え方に触れることで、新しい考え方を取り込むことができた。 ・今までのSDGsの名前と概要だけを知っている状態だったので、今回詳しく学ぶことができてよかった。ただ環境や貧困を考えるのではなく、様々なアプローチがあり、それぞれにメリット、デメリットがあることを知った。自分自身の立場から、持続可能な社会のために何ができるのか、変化の激しい時代だからこそ落ち着いて1つずつ組みたい。 ・今回の講演を聞いて、SDGsの役割を知ることができ良かった。これから必要な人材になれるよう、もっと色々な視点をもって学校や日常生活を過ごしていこうと思った。 ・私は現在ゼミで英語を用いたコミュニケーションとホスピタリティについて考えを深める多様な人々と関わる中でSDGsにもコミュニケーションは欠かせないと思う。どういったツールを用いても人との関わりは絶えないと思うので、日本にいる中で、各国の人と接する際のコミュニケーションにSDGsの視点が活きると思う。また、SDGsとホスピタリティも通じると思う。 ・私の学校では留学生やハーフの子たちもいます。文化も違うので、SDGsの基本である考え方の部分で異なりますが、その国の文化であったり食であったり色々なことを知れるので、いい刺激になります。 ・意見や考え方の多様性に改めて気付かされたので、SDGsについて取り組みたいアクションをこれまで一人で考えていたが、他の意見も取り入れてみたいと思った。 ・近な物や人にSDGsは通じると思うので、私の周りのものの発展に全く関係ない事柄を組み合わせたい。熊本城や地下水など熊本には絶やしたくない遺産が多くあるため1人の住民として、又は社会人としての関わり方や取り組みも考えていきたい。次回のゼミ活動でゼミ生とも話したい。
写真等	

④全国 EPO ネットワーク・関係事業事務局との連携、連絡会議参加

地球環境パートナーシッププラザ・地方 EPO はもとより、地域循環共生圏支援全国事務局等との連携を密にし、連絡会議等に積極的に参加し九州・沖縄ブロックとしての成果・課題の共有と発信を行った。

全国事業による研修・分科会等の開催にあたっては参加協力を行い、ネットワークづくりを支援した。

行事名	令和 2 年度 第 1 回 全国 EPO 連絡会議（オンライン開催）
開催日等	令和 2 年 6 月 25 日（木）・30 日（火）
概 要	<p>〈次第〉 6 月 25 日（木）10：00～16：00（全国 EPO 連絡会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会あいさつ ・オリエンテーション、資料確認、諸注意 【議題 1】EPO ネットワークについて ・参加者自己紹介、各 EPO の特徴や今年度重点の紹介 【議題 2】外部連携事業について ・地球環境基金 ・セブンイレブン記念財団 ・Green Gift 地球元気プログラム 【議題 3】令和 2 年度事業について ・海外の地域循環共生圏の「システム」（シュタッドベルケなど）の事例 ・今年度の事業の進め方、キックオフミーティング、支援チーム派遣に向けた検討状況、活動地域ごとの指標について等 ・森里川海の本省の今年度の事業内容（アンバサダー含む）、情報提供、地方への依頼等の説明 ・金融関係（ESG 含む）の本省の今年度の事業内容、情報提供、地方への依頼等の説明 ・地域循環共生圏事業進捗状況、F 事業ヒアリング取りまとめの共有（地方毎 7 分程度）※共有フォーム、ヒアリング取りまとめシートを使用 ・質疑応答 <p>6 月 30 日（火）10：00～12：30（EPO 研修）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域経済循環分析の内容の説明や ツール活用や地域プラットフォーム事業への活用 ・環境計画課で検討している自治体単位の指標について ■受託者会議への出席
成 果 ・ 検討事項	<p>年度開始に併せ、環境省、全国各地域の EPO 間の情報を共有し、各事業についての確認を行う連絡会に出席した。</p> <p>外部資金との連携事業において、地球環境基金関連、また連携が予期される外部団体との協働方針、コロナウイルス感染拡大と GreenGift 地球元気プログラムについても各 EPO 間で情報共有を行った。</p> <p>また環境省から地域循環共生圏、及び森里川海プロジェクトに関する、令和 2 年度事業についてのプロセスや、検討状況に関する情報提供が行われた。加えて、海外の地域循環共生圏の構築状況について事例紹介が行われた。</p>

	<p>翌30日には、地域経済循環分析のツール活用の手法や、プラットフォーム事業への活用についての情報提供が行われた。</p> <p>次第の最後として、EPO 受託団体間の共有の場を設定し、各地の事業進捗や課題共有を実施して連絡会を終了なった。</p>
--	---

行事名	令和2年度 第1回全国 EPO 連絡会 補完会議
開催日等	<p>日時：令和2年8月5日) 12:30~17:00</p> <p>会場：TKP ガーデンシティ仙台（宮城県仙台市）</p> <p>※対面とオンラインの併催</p>
概要	<p>〈次第〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会挨拶 ・オリエンテーション、資料確認、諸注意 <p>【議題1】EPO 事業の全体像について</p> <ol style="list-style-type: none"> ①これからのEPOの基盤業務（※ESDセンター業務含む） ②これからの外部連携事業 <p>【議題2】EPO 事業の評価について</p> <p>【議題3】本年度の各事業における認識すり合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートナーシップ基盤強化事業 ・地域循環共生圏プラットフォーム構築事業 ・森里川海 ・事務連絡 ・閉会あいさつ
成果 ・ 検討事項	<p>業務のより一層の推進と効率化を図るため、GEOCとEPOネットワークの基盤の共有と、今後の業務認識のすり合わせを目的とした連絡会に出席した。</p> <p>会議では、過年度の各事業で実施してきた環境パートナーシップに関する業務の全体像、及び獲得された強みについて意見交換を実施した。ESDセンター業務を含むEPO業務のうち、基盤となる業務の位置づけを参加者で検討したほか、獲得した知見を有効活用していく手法についても議論を行った。</p> <p>また第一回連絡会において協議された各外部連携事業について、今年度及び次年度以降の業務体系において、どのような協働を行うかについて意見交換を行った。</p> <p>またEPO業務を評価し、外部に周知するにあたって、どのような評価軸で整理し、また発信を行うかについて具体的なアイデアを共有した。</p> <p>また今年度進行している、パートナーシップ基盤強化事業、地域循環共生圏パートナーシップ構築事業、森里川海事業に関する認識のすり合わせをGEOC、地方EPO間で行った。</p>
写真	

行事名	令和2年度 第2回全国 EPO 連絡会 (WEB 会議)
開催日等	令和3年1月15日(金) 13:00~16:30 (全国 EPO 連絡会) 令和3年1月19日(火) 10:00~16:00 (全国 EPO 連絡会、事務所・EPO 受託者会議)
概要	<p>1月15日(金) 13:00~16:30 (全国 EPO 連絡会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会あいさつ (民活室三木室長) ・オリエンテーション、資料確認、諸注意 (GEOC) <p>【議題1】 令和2年度地域循環共生圏 PF 事業進捗共有 (森里川海含む)</p> <p>【議題2】 令和2年度パートナーシップ基盤強化事業進捗共有</p> <p>【議題3】 その他令和2年度事業の進捗共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務連絡 <p>1月19日(火) 10:00~16:00 (全国 EPO 連絡会・分科会)</p> <p>【議題4】 令和3年度 EPO 事業について</p> <p>【議題5】 環境省からのトピックス (来年度の重点など)</p> <p>【議題6】 今後の外部連携強化について</p> <p>分科会 (事務所会議・EPO 連絡会をそれぞれ実施)</p>
成果 検討事項	<p>第2回全国 EPO 連絡会のオンライン開催に出席した。</p> <p>まず、今年度進捗している地域循環共生圏プラットフォーム事業と森里川海に関する事業について、各地方 EPO より情報共有を行った。また GEOC より、全体の運営、スケジュールについて情報提供が行われ、以上の情報に基づいて各地方 EPO による意見交換を実施した。</p> <p>次に今年度事業であるパートナーシップ基盤強化事業について、各地方 EPO より企画や実施状況の共有、また金融機関をはじめとした外部組織との連携状況について情報共有を行い、その後意見交換を実施した。</p> <p>外部連携事業についても、地球環境基金の助成金説明会開催結果、また各地で新型コロナウイルスに対応した活動が続いている GreenGift 地球元気プログラムの進捗状況について、地方 ESD 間の情報共有を行った。</p> <p>また獲得してきた EPO の強みを発信するツールとして、カタログ形式で地方 EPO の活動を周知する冊子の編集状況と、活用方針について意見交換を実施した。</p> <p>翌19日は、令和3年度の地域循環共生圏、パートナーシップ基盤強化事業等について現在の展望や今年度進捗との接続等について議論を実施した。また環境省からは、次年度の重点政策等のトピックス提供が行われた。</p>